

## 12. プロジェクト協力の基本計画

### 12-1. 協力の方針

本プロジェクトは無償資金協力による研究所建設（並びに研究機器の整備）と技術協力によるソフト面のサポートの2部門に分けることができる。結論の項で述べたように11月30日までにグアテマラ側の対応方針が最終的に明らかになった時点で、1990年2月を目途に長期調査・B/D調査の2チームによる技協・無償協力の内容を明らかにし、その早期実施を目指す。グアテマラ側には実行委員会の設立を要請し、このチームのC/P委員会とする。部門毎のグアテマラ側の漸定実行委員構成は次のとおりである。

熱帯病研究所プロジェクト運営実行委員会（仮称）の構成

部 門	グアテマラ側委員（仮）	
第一部門	Dr. R. Lujan Dr. R. Masellip	(バエ大学) (USAC)
第二部門	Dr. G. Zed F Dr. J. Castellanos	(厚生省マラリア局) (USAC)
第三部門	Dr. J. O. Ochoa A Ldo. M. C. Monroy	(厚生省マラリア局) (USAC)
第四部門	Dr. Zamora Ldo. P. Molina	(厚生省マラリア局) "

研究スペース、カウンターパートの獲得などについてはこれから検討する。

一方、グアテマラ側研修員については成るべく早く、1990年春から夏からそれぞれの部門を担当する国内機関で受入る予定である。

### 12-2. 協力の範囲及び内容

1) 対象となる疾病は昆虫媒介性疾病（シャガス病、リーシュマニア症、マラリア、デング熱など）の他、グアテマラ側の要請で緊急度の高い疾病、例えば有鉤のう虫症などを取り上げるものとする。これらの疾病についての診断、治療、防圧、疫学的分析をはかり、人間生態、社会学との関連を探り、衛生上の問題解決を図る。

本プロジェクトの活動範囲に係るマトリックスとして、以下のところにつき検討される。

疾病 部門	疾病				
	シャガス病	マラリア	リーシュマニア 症	オンコセル症	その他( Dengue熱・有鉤の虫症他)
第1部門					
第2部門					
第3部門					
第4部門					

2) このプロジェクトのもう一つの目的は、グアテマラ国における衛生上の問題解決を自ら担当する人材の養成にある。このため本研究所での研究・日本での研修あるいは第三国研修などを通じて適切な技術と研究精神を持つ人材育成を図る。

### 12-3. 協力部門別計画

#### 1) プロジェクト実施課題(案)

##### 第一部門：病原体同定と診断

1. 病原体あるいは抗原の分子生物学的 (DNAプローブ) ・免疫学的 (モノクローン抗体) ・生化学的 (アイソザイ) 分類・同定法の開発
2. 特異抗原・抗体の免疫学的検出法の改良 (免疫診断)
3. 病原体の微細構造 (電子顕微鏡レベル) 及び分子生物学的研究

##### 第二部門：化学療法及び臨床研究部門

1. 鞭毛虫類原虫 (シャガス病・リーシュマニア) 殺滅物質のスクリーニング
2. 化学療法・物理療法の開発・改良に関する研究
3. 各種病原体の病原性に関する研究

##### 循環器疫学

##### 第三部門：伝播昆虫の生物学と防圧

1. 主要伝播昆虫の分類・species complexの研究
2. 主要伝播昆虫の生態と総合防除の研究
3. 殺虫剤抵抗性に関する研究

##### 第四部門：人間生態学部門

1. 疫学；コンピューターによるデータ集計と解析
2. 生態学；居住環境・人間生態分析と疾病伝播の関連

2) 各部門別年次計画（案）

部 門 (テーマ)	1990	1991	1992	1993	1994
第一部門 1 2 3					
第二部門 1 2 3					
第三部門 1 2 3					
第四部門 1 2					

12-4. 専門家派遣計画

上記協力方針及び内容に沿って、各部門の長期専門家を中心に派遣が検討されることになるが、チームリーダー及び調整員の他、少なくとも各部門1名の長期専門家に加えて、随時、必要に応じて短期専門家にて対処していくこととなろう。これについては、グアテマラ側の本件対応に係る回答を待って、我が方より長期調査員の派遣を行ない、更に詳細につき検討を加えていくこととする。

12-5. 研修員受入計画

協力内容に沿って、年間2～3名のグアテマラ側カウンターパートを受入れることとする。

なお、スタッフ・リテンション (Staff Retention: 研修員が本邦で研修を受けて、グアテマラに帰国後、引き続き本プロジェクトに関与し、業務を遂行すべき拘束性) については、グアテマラ側は厚生省等政府機関職員の帰国後一定の期間の拘束についての法規 (契約) があり、これにより引き続き、プロジェクトのカウンターウパートとして配置されることになることを明らかにした。

12-6. 機材供与計画

本計画も詳細には長期調査等の派遣により検討されるものである。

## 13. 専門家の生活環境

同国における住宅、教育、治安事情については、国際協力事業団国際協力総合研究所発刊の「グアテマラ 任国事情 1988年」を参照されたい。

## 14. 相手国との協議結果

本件調査団は、9月4日から18日までの間、熊本大学多田功教授を団長としてグアテマラ共和国を訪問した。(無償資金協力担当の中谷団員は10日合流)

今回の調査に際しては、当初、グアテマラ側のプロジェクト実施体制が明確でなかったところがあったが、ゲレル・マタ厚生大臣との協議においてグアテマラ側の責任体制が明らかになり、厚生省国際関係局マルドナード局長が行政事項を、また、マラリア局サモーラ次長を中心とする技術委員会が技術事項の担当として指名され、それぞれと担当事項の協議を行なった。その間、日本大使館との打合せ等を通じ、上記関係者等との協議を重ねた結果、グアテマラ側は大蔵大臣、厚生大臣と日本側は調査団団長との間で別添の通り、ミニッツを署名・交換した。

ミニッツの内容及び調査団コメント

### 1) プロジェクトの目的

プロジェクトの目的は、熱帯病、とりわけ昆虫媒介性疾患の診断、治療の改善、及び防圧、それを通じての人材養成を行ない、もってグアテマラ国の保健衛生の改善に資することとする。

### 2) プロジェクトの活動内容

- (1) 熱帯病の病原体の同定・診断の改善
- (2) 化学療法・臨床研究
- (3) 伝播昆虫の生物学・防圧
- (4) 人間生態学

#### (コメント)

当初、グアテマラ側は協力内容を個々の疾患を中心に取り上げることに重点が置かれていたが、各種熱帯病対策を講ずる上で、熱帯病診断、治療、予防、抑制等の方法論的手法を重点とすることで、あらゆる疾病に対処する基盤的技術の開発が優先されるものであり、その進展によっては、下痢性疾患等の別の疾病に対する研究の成果も期待できることとして、上記活動内容にて双方合意に達した。

### 3) プロジェクト名

「熱帯病研究所」プロジェクト

(コメント)

グアテマラ側要請では、「中米・カリブ熱帯病研究所」プロジェクトとしてグアテマラのみならず、中米、カリブ諸国を対象としたものであったが、今回の調査でグアテマラ側の熱帯病研究基盤の脆弱性もあり、取りあえずグアテマラ国内を対象として実施し、将来的にはその後の成果を見極めた上で、第3国研修などの可能性を探ることとし、上記プロジェクト名称とした。

### 4) 実施機関

厚生省マラリア局

(コメント)

調査団派遣前の情報によると、本件実施に当たっての懸案事項の一つとして、実施機関の特定であった。先方要請では厚生省マラリア局であり、研究所設立後の運営管理については厚生省の予算負担能力に対し、危惧があったこと、更にマラリア局での本件協力のカウンターパートの十分な配置に不安があり、他方、国立サン・カルロス大学には、人材もあり、かつ予算的にもマラリア局より恵まれているとのことで、本件に対して双方の調整が不足しているとのことであった。

調査団としては、双方の主要関係者との協議の結果、本件が厚生省を実施機関とすることは、1)その研究成果を行政に反映させること、2)従来の我が国の協力の延長に位置付けていること、3)厚生省とサン・カルロス大学との間に人的交流の取り決めがあり、大学側としても厚生省に対して全面的支援を約束していること、4)大蔵大臣及び厚生大臣をはじめ関係者が、本件研究所の維持管理に係る予算確保を約束したこと等を考慮し、マラリア局を相手側実施機関とすることとした。

### 5) プロジェクトの組織

- (1) 厚生省は本件プロジェクトの実施機関として全責任を負うこととする。
- (2) マラリア局はプロジェクトの管理・運営事項につき責任を負うこととする。

### 6) グアテマラ側が取るべき措置

グアテマラ政府はプロジェクト実施に向けての調査団による要望（アネックスI）を了承し、1989年11月30日までに適切な措置を取るとともに、その結果を日本政府に通報することに同意した。

(アネックス1)

## 1. プロジェクトサイト

調査団は以下の理由により、プロジェクトサイトをマラリア局に隣接させるべきであるとの要望をする。

- 1) 技術的観点—研究スタッフの交流及びコミュニケーションが両機関（研究所とマラリア局）にて容易であること。
- 2) 管理的観点—両機関にて共通の人材及び施設を共有する利点があること。
- 3) アクセスの便利性—サン・カルロス大学、バエ大学等主要機関、厚生本省及び居住地域に近接していること。

## 2. カウンターパート

調査団は、グアテマラ側が本件技術協力のカウンターパートとして約12名の研究者（各研究部門に3名の配置）を用意すること並びにグアテマラ側の規程により、少なくとも一定の期間プロジェクトに従事することを要望する。

## 3. 予算措置

調査団は、グアテマラ政府がカウンターパート研究者、技術者及びその他の作業人員の人件費、管理・維持費等のプロジェクト実施に係る適切な予算措置を講ずるよう要望する。

(コメント)

グアテマラ側は調査団の受入れに際し、本件協力に前向きな姿勢を政府として取ってきていたにも拘らず、当初要請当時の厚生省職員の人事の変更もあり、その実施体制については十分な準備が整っていなかったが、既述の如く、行政面ではマルドナード国際関係局長を、また、技術面ではマラリア局サモラ次長を中心とする技術委員会をそれぞれグアテマラ側当事者として厚生大臣が任命し、調査団との協議を行なった。

調査団は、グアテマラ側との協議及び調査を通じ、本件の実施については、3点のグアテマラ側が取るべき措置が明確になった時点で、協力の可能性を検討することとし、グアテマラ側もこれを了承した。

1)のプロジェクトサイトの特定については、当初の要請では、確保されているとのことであったが、その後の状況の変化で、調査団派遣時には特定されていなかった。調査団は、グアテマラ側より幾つかの研究所建設候補地を提示されたが、アネックスに記載されている理由により、その中でマラリア局隣接地を要望としてあげ、これにグアテマラ側も検討することで了解した。

2)のカウンターパートの配置については、本書11-5のカウンターパートの配置を参照されたい。

3)予算措置については、グアテマラ側は当初の要請通りの研究所規模を念頭において検討してきたところ、その負担能力にグアテマラ側自身にも若干の危惧感があったが、調査団との技術的観点からの本件プロジェクトの絞り込みにより、大蔵大臣、厚生大臣等より予算手当を講ずる旨

の表明がなされたことで、その具体的検討を開始することになっている。

以上3点は、1989年11月30日までにグアテマラ政府より、その対処方につき日本側に回答が発出されることで双方の合意に達した。

#### 7) 技術協力

(1) グアテマラ政府は、調査団の説明した日本側プロジェクト方式技術協力の仕組みにつき理解し、日本の技術協力は以下の点で実施されるものとする。

- (a) 日本人専門家の派遣
- (b) 日本における研究トレーニングとしてグアテマラ人カウンターパートの受入れ
- (c) プロジェクトに必要とされる資機材の供与

(2) プロジェクトは以下の分野で日本人専門家を受入れることとする。

- (a) 衛生昆虫学
- (b) 免疫学
- (c) 寄生虫学
- (d) 疫学
- (e) 人間生態学
- (f) 生化学
- (g) その他双方にて合意した分野

(3) グアテマラ人カウンターパートを日本にて研修受入れを行なうこととする。

(4) 日本政府は必要とされる資機材の供与を行うこととする。

(5) 技術協力は5年間の実施をする。その開始時期は後に決めることとする。

#### 8) 無償資金協力

(1) グアテマラ政府は、調査団の説明した日本の無償資金協力の仕組みを理解した。

#### 9) 調査団の要請

本件調査団は、グアテマラ政府が取るべき上記6.に記述された措置を前提として技術協力並びに無償資金協力の実施についての可能性を日本政府が検討することを日本政府に要請する。

(コメント)

調査団は、本件がグアテマラにとって意義あるものであるとの結論の上、実施の可能性の検討には、記述の3点のグアテマラ側が取るべき措置を見極めた上、次の手続きを踏むことが現時点では妥当との判断に立ち、今回のミニッツを署名・締結したものである。

## 15. 技術協力の妥当性

調査団はグアテマラ側との協議を通じ、本件協力の可能性を検討してきたが、要約にてのべたごとく、相手側の今後の対応によっては、実施すべき要請案件であるとの判断を持つに至ったものである。

本件は、従来の疾患別熱帯病対策から、それを縦軸とするならば、疾患の基盤的技術の展開という方法論別対策に取り組む、謂わば横軸の、横断的技術の展開であり、熱帯病研究の新機軸の協力の展開であり、熱帯病研究の新機軸の協力と言っても過言ではない。

これらの協力による成果は、熱帯病のみならず、下痢症等の疾患に対しても、共通の方法論的基盤技術により応用研究・対策が可能となろう。

かかる観点から本件協力は、グアテマラにおける疾患研究に画期的なものであるとともに、その成果を同国の保健医療行政に反映できるものとして判断されるものであり、協力の妥当性を排除するものではない。

## 16. 協力実施にあたっての留意事項

今回の事前調査では、グアテマラ側の3点の取るべき措置につき、グアテマラ側が11月30日までにその回答を日本側に通報するとの条件でミニッツを締結したものであり、この諸条件がクリアされた場合に、我が方から本件実施に向けての可能性を更に検討するべく、プロ技協より長期調査員等を派遣し、より具体的協力内容を詰めていく必要がある。

また、これら3点の取るべき措置（研究所建設の土地の確保、管理運営費の確保、カウンターパートの配置）のうち、今後とも絶えず日本側としてウォッチしていかなければならないものは、管理運営費の確保とカウンターパートの配置である。管理運営費の確保は今後5年間に亙るプロ技協実施期間中ばかりではなく、その間、日本側の協力終了後の体制作りをグアテマラ側が行っていかなければならないものである。また、カウンターパートの配置については、厚生省独自で人員を配置できないことから、サン・カルロス大学等よりカウンターパートを補充することで厚生省及び大学の間で合意が得られているが、これについても今後、両者の関係調整につき注視していくことが必要となる。

## 17. 提 言

### (1) 研究所設立地

調査団としてはマラリア局とルーズベルト病院の間に存在する土地を本研究所のために提供し

てもらうことを希望する。この土地はマラリア局の土地を含めIGSS（社会福祉公社）の土地であるが、厚生省との間は良好な関係なので問題は無いと考えられる。その理由は①首都にあり、安全性、居住地と近いこと、上述2機関とのアクセスの良さ、②水道、電気の供給、補修の便利さ、③周囲に居住地が無く、動物センター、ラジオアイソトープ（RI）施設の保有、などから考慮してベストだと考えられる。

#### （2）カウンターパート（C/P）

研究所各部門にはフルタイム3名、パート3名ほどのC/Pを要請したい。フルタイム所員はここでの研究に専念する他、日本での研修の便宜を受けることができる。

内容はシニア1、ジュニア2、を考えていて、厚生省と大学（USAC、バエ大学など）から、人材をスカウトしてほしい。

技術はジュニアの場合、必ずしも必要でなく、生物学、医学の大学卒であることが条件で向学心の強い若人を希望する。選定については実行委員会が行なってほしいが日本側からの示唆もするものとする。

#### （3）RI施設

放射性同位元素の使用に必要な施設と技術の習得。現在、グアテマラには施設建設の規準が法制化されていないが、バエ大学では米国の規準に準じて施設をつくっており、近い将来、これらの整備がなされるものと期待される。その必要性はいうまでもないことであるので、研究所の計画に組入れられるべきであろう。

#### （4）プロジェクト維持費

フルタイム所員については、グアテマラ政府は十分な給与を支払って欲しいが、目安としてはQ2,000/月が相応かと考えられる。これは当研究所での勤務に専念するためである。研究機器の維持費についてもプロジェクト予定期間（5ヶ年）終了後には自ら実施し得る努力をして欲しいとともに、研究機器について修熟し、自ら、補修し得る能力を育ててほしい。この種の自助努力なしに研究者を養成することは不可能であり、所員個人としても他力依存は不毛である。

#### （5）研究成果の現地への還元

本研究プロジェクトはいわゆる先進国型アカデミズム追求を第一の目的としない、もっと衛生分野の実際問題を解決するためのセンターを目指すべきである。こ意味で、プロジェクト進行とともに次のようなことを実施するのが望ましい。

a) ニュースレターの配布：厚生省、大学の関係機関に対し、プロジェクトの現状、開発テーマの中間発表などを積極的に広報する。ブラジルのオスワルド・クルズ研究所のニュースレターが参考になる。

b) 研修会・カンファレンスの主催：情報交換を求めて、まず、国内次いで近隣諸国の関係者を招集し、カンファレンスを開催する。一方、グアテマラ国内・近隣諸国の技術者を対象にシステムティックな研修を実施する。これらは所員の研究意欲を亢進させるうえでも重要である。

#### (6) 技術協力の精神

これは特に日本側の関係者に求められることであるが、高額のODAを用いて、開発途上国援助をする以上、その意義と精神を十分自覚することが重要である。技術的には遅れた国であるとはいえ、グアテマラはイベリア文化の伝統と大航海時代の精神と受け継いだ国である。日本側としては技術移転と研究協力を誠意を尽す一方、相手国文化・習慣に対する敬意を持ちつづける努力が基本的に必要である。1975-1983年のオンコセルカ症研究・防圧プロジェクトの反省に立って言えば①語学力（英語プラス西語への努力）。②レハリック、（日本的短絡を排し、相手の文化の中に存在することを理解）。③グアテマラ側C/Pとの心のつながりの保持（コミュニケーションのみならず、日常の交際の必要性）などに留意したい。一般的に表面的な観察だけでラテン・アメリカ人の良さを評価することは難しい。ラテン・アメリカ人の魂の輝きは、我が方の対応如何によって現れるものと考えていきたい。



## 附 属 資 料

- 資料 I 事前調査ミニッツ (英・西文)
- 資料 II グァテマラ側事前プロポーザル
- 資料 III 持ち帰り資料一覧



## 資料 I 事前調査ミニッツ (英・西文)



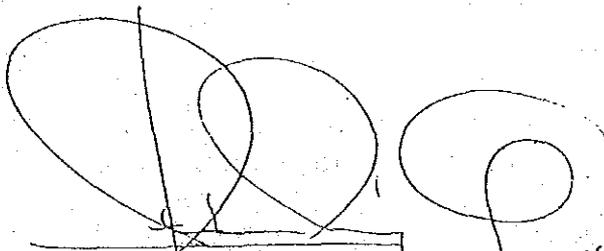
THE MINUTES OF DISCUSSIONS  
BETWEEN THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE REPUBLIC OF GUATEMALA  
ON THE PROJECT OF  
THE TROPICAL DISEASES INSTITUTE

The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. ISAO TADAS, Professor of Kumamoto University Medical School, visited the Republic of Guatemala from September 5th to September 16th, 1989, for the purpose of making the study on the request of the Technical Cooperation and the Grant Aid Programme for the Project of the Tropical Diseases Institute (hereinafter referred to as "the Project").

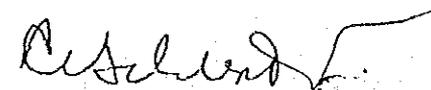
During its stay in the Republic of Guatemala, the Team and the views and had a series of discussions with the Guatemalan authorities concerned.

As a result of the study and the discussions, the Team and the Guatemalan authorities concerned came to the tentative understanding of the matters referred to in the document attached hereto.

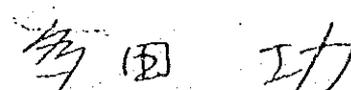
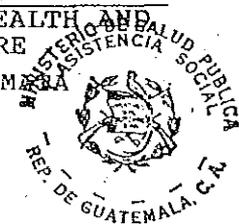
Guatemala City, September 14th, 1989



MINISTER OF FINANCE  
DR. RODOLFO PAIZ ANDRADE



MINISTER OF PUBLIC HEALTH AND  
SOCIAL WELFARE  
DR. CARLOS GEHLERT MERLA



PROF. DR. ISAO TADA  
LEADER  
JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM,  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION  
AGENCY

### 1. PURPOSE OF THE PROJECT

The purpose of the Project is aiming at improvement of diagnosis, treatment, and control of tropical diseases, chiefly vector-borne diseases, development of human resources, and thus contribution to the promotion of the public health in the Republic of Guatemala.

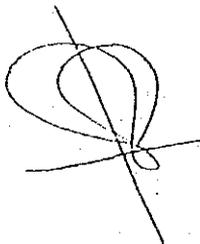
### 2. OBJECTIVES OF THE PROJECT

The objectives of the Project are as follows:

- (1) Technical improvement in identification of pathogens and diagnosis of diseases concerned,
- (2) Experimental chemotherapy and clinical research,
- (3) Studies of vector biology and control,
- (4) Human-ecological and epidemiological analysis of disease transmission.

### 3. NAME OF THE PROJECT

"The Tropical Diseases Institute".



My (D)

#### 4. EXECUTING AGENCY

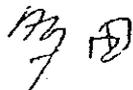
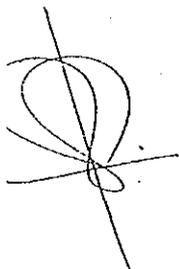
Division of Malaria, under Ministry of Public Health and Social Welfare.

#### 5. ORGANIZATION OF THE PROJECT

- (1) The Ministry of Public Health and Social Welfare will bear the overall responsibility for the successful implementation of the Project.
- (2) The Division of Malaria will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.

#### 6. MEASURES TO BE TAKEN BY GUATEMALAN SIDE

The Government of the Republic of Guatemala understood the requests (shown in Annex I), proposed by the Team for the implementation of the Project, and agreed to take appropriate measures and to inform the results to the Government of Japan by November 30th, 1989.



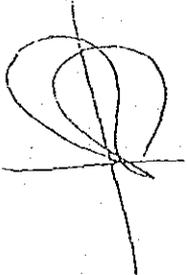
## 7. TECHNICAL COOPERATION

(1) The Government of the Republic of Guatemala understood the system of the Japanese Project-type technical cooperation, which was explained by the Team. The Japanese Technical Cooperation will be implemented through:

- (a) Dispatch of Japanese experts,
- (b) Acceptance of Guatemalan counterpart personnel for research training in Japan, and,
- (c) Provision of equipment and materials necessary for the Project.

(2) The Project is expected to receive the Japanese experts in the following fields:

- (a) Medical entomology
- (b) Immunology
- (c) Parasitology
- (d) Epidemiology
- (e) Human ecology
- (f) Biochemistry
- (g) Other related fields mutually agreed upon.

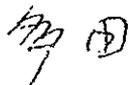
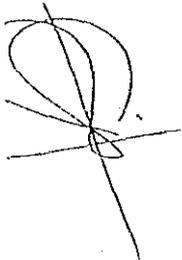


1971 ID

- (3) Some of Guatemalan counterpart personnel will be trained in Japan.
- (4) The Government of Japan will provide necessary equipment and materials.
- (5) The Technical Cooperation will be conducted for five (5) years. The exact date of its commencement will be fixed later.

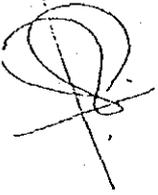
#### 8. GRANT AID

- (1) The Government of the Republic of Guatemala understood the system of the Japanese Grant Aid, which was explained by the Team.
- (2) The scope of cooperation to be covered by the Grant Aid will be studied and clarified by the following Basic Design Study Team, which will be dispatched by JICA after the feasibility of the Project is confirmed by the Government of Japan.



9. RECOMMENDATION OF THE TEAM

The Team will recommend to the Government of Japan that the Government of Japan examine the feasibility of the implementation of Technical Cooperation and Grant Aid on the condition that the measures mentioned in 6. above are taken by the Government of Guatemala.



197 (D)

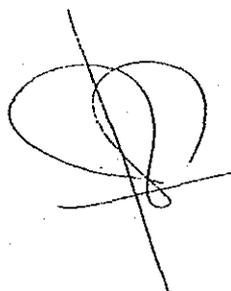
ANNEX I

The Team has prepared the following Proposal:

1. The Project site:

The Team requests that the Project site should be very close to the existing institution of Division of Malaria, based on the following reasons:

- 1) Technical view - closeness between the new institute and Division of Malaria facilitates exchange of research staff and communication,
- 2) Administrative view - Division of Malaria and the new institute have the merit to share the common personnel and facilities, and,
- 3) Convenience in access - Access to major institutions such as the University of San Carlos, the University of Valle and the General Directorate of the Ministry of Public Health and Social Welfare and residential areas.



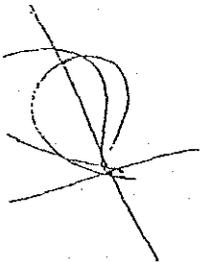
多田

2. The Counterparts:

The Team requests that the Guatemalan side should prepare about 12 professional persons (3 persons in each of four research objectives) as counterparts of the technical cooperation and that they work for the Project for at least the certain period determined by the Guatemalan regulations.

3. The Budget:

The Team requests that the Government of Guatemala should provide an adequate amount of budget for the execution of the Project such as the personnel cost of counterparts, technicians and workers, the cost for the operation and the maintenance.



多田

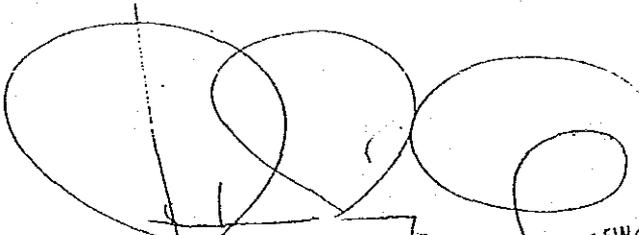
MINUTA DE DISCUSIONES  
ENTRE EL EQUIPO PRELIMINAR JAPONES  
Y

LAS AUTORIDADES DEL GOBIERNO DE LA REPUBLICA DE GUATEMALA  
EN EL PROYECTO DEL INSTITUTO DE ENFERMEDADES TROPICALES

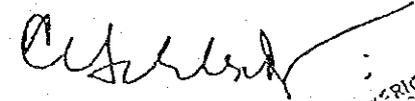
El Equipo Preliminar Japonés (referido aquí como "El Equipo") organizado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (aquí referida como "JICA") y dirigida por el Dr. ISAO TADAS, Profesor de la Universidad de la Escuela de Medicina de Kumamoto, visitó la República de Guatemala de septiembre 5 a septiembre 16, 1989, con el propósito de hacer el estudio en la solicitud de la Cooperación Técnica y el Programa de Ayuda para el Proyecto del Instituto de las Enfermedades Tropicales (aquí referido como "el Proyecto").

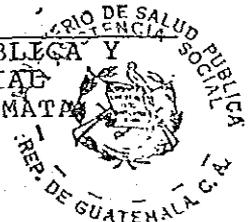
Durante su estadía en la República de Guatemala, el Equipo y las visiones y había una serie de discusiones con las autoridades de Guatemala.

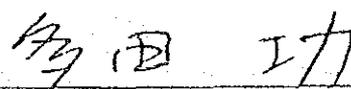
Guatemala, 14 de septiembre, 1989

  
MINISTRO DE FINANZAS PUBLICAS  
DR. RODOLFO PAIZ ANDRADE



  
MINISTRO DE SALUD PUBLICA Y  
ASISTENCIA SOCIAL  
DR. CARLOS GEHLERT MATA



  
PROF. DR. ISAO TADA

LEADER  
EQUIPO PRELIMINAR JAPONES  
AGENCIA DE COOPERACION INTENACIONAL  
DE JAPON

## 1. PROPOSITO DEL PROYECTO

El propósito del Proyecto es ayudar al mejoramiento del diagnóstico, tratamiento y control de las enfermedades tropicales, principalmente las enfermedades de vectores, desarrollo de los recursos humanos, y así la contribución a la promoción de la salud pública en la República de Guatemala.

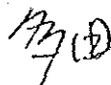
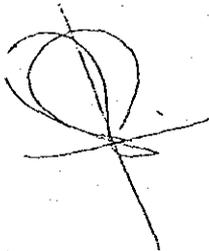
## 2. OBJETIVOS DEL PROYECTO

Los objetivos del Proyecto son:

- (1) Mejoramiento técnico en la identificación de patógenos y diagnósticos de enfermedades,
- (2) Quimioterapia experimental e investigación clínica,
- (3) Estudios del vector biológico y control,
- (4) Análisis humano-ecológico y epidemiológico de la transmisión de la enfermedad.

## 3. NOMBRE DEL PROYECTO

"Instituto de las Enfermedades Tropicales".



#### 4. AGENCIA EJECUTORA

División de Malaria, del Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social.

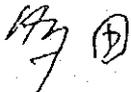
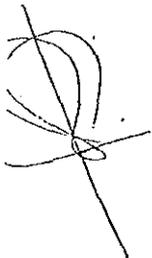
#### 5. ORGANIZACION DEL PROYECTO

- (1) El Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social contraerá toda la responsabilidad para la implementación satisfactoria del Proyecto.
- (2) La División de Malaria será responsable por las circunstancias administrativas y manejables del Proyecto.

#### 6. MEDIDAS A SER TOMADAS POR GUATEMALA

El Gobierno de la República de Guatemala entendió las peticiones (Anexo I), propuestas por el Equipo para la implementación del Proyecto, y acordó tomar las medidas apropiadas e informar los resultados al Gobierno del Japón el 30 de noviembre de 1989.

#### 7. COOPERACION TECNICA

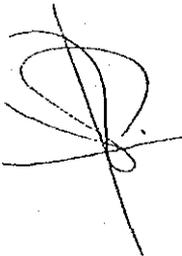


(1) El Gobierno de la República de Guatemala entendió el sistema del tipo de cooperación técnica del Proyecto Japonés, lo cual fue explicado por el Equipo. La Cooperación Técnica Japonesa será implementada a través de:

- (a) Envío de expertos japoneses.
- (b) Aceptación del personal de Guatemala para el entrenamiento de investigación en Japón, y,
- (c) Provisión de equipo y materiales necesarios para el Proyecto.

(2) El Proyecto espera recibir a los expertos japoneses en los siguientes campos:

- (a) Entomología médica
- (b) Inmunología
- (c) Parasitología
- (d) Epidemiología
- (e) Ecología humana
- (f) Bioquímica
- (g) Otros relacionados en los campos mutuamente acordados.



M 7 (D)

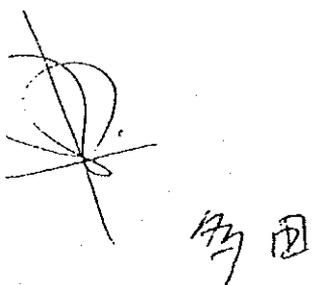
- (3) Algunos del personal de Guatemala serán entrenados en Japón.
- (4) El Gobierno de Japón proporcionará el equipo y materiales necesarios.
- (5) La cooperación técnica será conducida por cinco (5) años. La fecha exacta de su inicio será fijada posteriormente.

#### 8. AYUDA PROPORCIONADA

- (1) El Gobierno de la República de Guatemala entendió el sistema de la Ayuda Proporcionada por el Japón, la cual fue explicada por el Equipo.
- (2) La cooperación cubierta por la Ayuda Proporcionada será estudiada y clarificada por el siguiente Equipo de Estudio de Diseño Básico, el cual será enviado por JICA después de que el proyecto sea confirmado por el Gobierno de Japón.

#### 9. RECOMENDACION DEL EQUIPO

El Equipo recomendará al Gobierno del Japón que el Gobierno de Japón examine la factibilidad de la implementación de la Cooperación Técnica y la Ayuda Proporcionada en la condición de las medidas mencionadas en el punto 6, que son tomadas por el Gobierno de Guatemala.



Handwritten signature and initials, possibly reading '多田' (Toda).

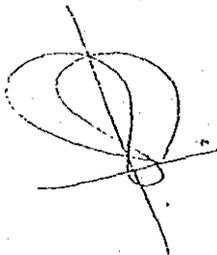
## ANEXO I

El Equipo ha preparado la siguiente propuesta:

### 1. El sitio del Proyecto:

El Equipo solicita que el proyecto sea cerca de la institución existente de la División de Malaria, basado en las siguientes razones:

- 1) Visión técnica - muy cerca entre el nuevo instituto y la División de Malaria facilita el intercambio del equipo de investigación y comunicación,
- 2) Visión Administrativa - División de Malaria y el nuevo instituto tienen el mérito de compartir el personal en común y las facilidades, y,
- 3) Conveniencia en el acceso - Acceso a las instituciones principales tales como la Universidad de San carlos, la Universidad del Valle y los Directores Generales del Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social y áreas residenciales.

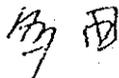
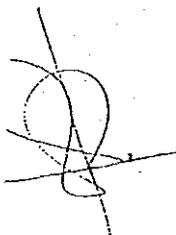


## 2. Las Contrapartes:

El Equipo solicita que Guatemala debería preparar a 12 profesionales (3 personas en cada uno de los cuatro objetivos de investigación) como contrapartes de la cooperación técnica y que ellos trabajen para el Proyecto por lo menos un cierto periodo determinado por las regulaciones guatemaltecas.

## 3. El Presupuesto:

El Equipo solicita que el Gobierno de Guatemala debería proporcionar una cantidad adecuada del presupuesto para la ejecución del Proyecto, tal como los costos del personal de contrapartes, técnicos y trabajadores, el costo por la operación y el mantenimiento.





## 資料 Ⅱ ゲアテマラ側事前プロポーザル



PROPUESTA PRELIMINAR  
INSTITUTO DE ENFERMEDADES TROPICALES

OBJETIVOS GENERALES

1. Desarrollar la investigación sobre enfermedades metaxénicas y otras enfermedades infecciosas prioritarias como causa de morbi-mortalidad en el país, a fin de plantear medidas alternativas de solución para la prevención, control y tratamiento de las mismas, a nivel individual y colectivo.
2. Fomentar y participar en el desarrollo de los recursos humanos, que el país necesite en el área de las enfermedades tropicales y otras enfermedades infecciosas prioritarias, a través de programas de capacitación en servicio de estudios de post-grado y formación de investigadores.
3. Desarrollar e implementar métodos continuos de evaluación para medir el impacto de las actividades y la inversión del Instituto sobre el estudio y control de las enfermedades estudiadas.
4. Difundir la información producida en el Instituto, en publicaciones periódicas en idioma español de amplia circulación nacional.
5. Cooperar con el sector salud en general para la aplicación del nuevo conocimiento producido.

## AREAS DE INVESTIGACION Y APLICACION

1. Ecología Humana
2. Ecología de Vectores
3. Biología (Parasitología, Microbiología, Virología, etc.)
4. Control Biológico
5. Inmunología
6. Clínica
7. Epidemiología
8. Entomología médica
9. Antropología social

## ENFERMEDADES A ESTUDIAR

1. Malaria
2. Dengue
3. Ciscitercosis
4. Enfermedad de Chagas
5. Oncocercosis
6. Leishmaniasis
7. Toxoplasmosis
8. Parasitosis Intestinal
9. Diarreas
10. Enfermedades Respiratorias
11. Otras.

### 資料 Ⅲ 持ち帰り資料一覧



持ち帰り資料一覧

資 料 名	発 行 者
1) Memoria Anual	Division de Malaria
2) Informacion Basica sobre Enfermedades Transmisibles	Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social
3) Plan de Salud Lineamiento de Politica y Estrategias	同 上
4) Guatemala en Cifras de Salud 1987	同 上
5) Recursos Humanos 1988	同 上
6) Plan Operativo Anual 1989 (Resumen)	同 上
7) Politicas, Estrategias y Objetivos del Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social	同 上
8) Situacion de los Programas de Malaria en las Americas XXXVII Informe	Organizacion Panamericana de la Salud (PAHO)
9) Indicadores de Salud 1987	Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social





JICA

